

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市社会福祉審議会第32回(平成30年度第1回) 高齢者福祉等専門分科会				
事務局 (担当課)		保険高齢部 高齢政策課 電話042-769-8354(直通)				
開催日時		平成30年11月22日(木)午後2時00分~午後4時00分				
開催場所		相模原市立総合学習センター2階 セミナールーム				
出席者	委員	10人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	5人(保険高齢部長、高齢政策課長他5人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 第6期相模原市高齢者保健福祉計画の進捗状況について (2) 高齢者福祉施策の見直しについて (3) その他 4 閉 会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局の発言)

### 1 開会

### 2 あいさつ

社会福祉審議会高齢者福祉等専門分科会長あいさつ

### 3 議題

( 1 ) 第 6 期相模原市高齢者保健福祉計画 ( 以下、「第 6 期計画」という。 ) の進捗状況について、事務局より内容を説明し、質疑応答を行った。

#### 質疑・意見等

第 1 号被保険者と認定者数の実績値は第 6 期計画の計画値より増加しているが、保険給付費が計画値内に収まっているのはなぜか。

第 1 号被保険者数と認定者数の実績値は計画値を上回ってはいるが、ほぼ計画値どおりの水準となっている。また、保険給付費については、介護保険料の算定に直接影響するため、ある程度余裕を持った設定としている。その他の理由として、介護認定はされているが、介護サービスを利用していない方も多い。受給者数は、認定者数の伸びほど増えていない。

保険給付費が計画値を上回った場合は、どのように対応するのか。

県からの借り入れを行う等、補正予算で対応を行うこととなる。

第 1 号被保険者数は、市民の流入で増えているのか、自然増なのか。

自然増によるものが多いと認識している。

第 6 期計画の指標 1 1 「社会参加を行う高齢者の割合」について、地域特性が出てくるものだと思うが、地域ごとの状況は把握しているのか。

市総合計画に係る市民アンケート調査の結果によるものであるが、地域ごとのデータも集計をしている。

社会参加の定義は何か。

自営、就業、地域活動やボランティア等である。

サービス付き高齢者向け住宅の供給数に係る指標があるが、開設しているサービス付き高齢者向け住宅の種別は介護型が多いのか、自立型が多いのか。

住宅型の有料老人ホームで外部の介護サービスを利用している施設が多い。

施設整備の検討に当たっては、サービス付き高齢者向け住宅等の実態も踏まえ、検討を行ってほしい。

指標 8 「特別養護老人ホームへの入所を 1 年以内に希望している在宅の要介護 3 , 4 及び 5 の人数」については、目標値が 0 人という設定は無理があると思う。

目標値は0人として設定していたが、入退所の入れ替えのタイミング等もあり、また、待機者のリストには入っているが、すぐに入所を希望しない人もおり、0人という数字は現実的ではない。平成30年4月1日時点では、252人の待機があるが、空床や過去半年間での退所の状況等から、待機はほぼ解消していると判断している。

(2) 高齢者福祉施策の見直しについて、事務局より内容を説明し、質疑応答を行った。

#### 質疑・意見等

施策の見直しについて、事業実施の効果を記載しており、非常に分かりやすい。

買い物難民が増えている。移動支援の検討の中で買い物支援についても検討をしてほしい。

移動支援を生協が行っている。しかしながら、通院の際には、病院内での支援は行っていない。病院内でも支援を行えるようにしてほしい。また、タクシー業界との調整も必要になると思うが、どうか。

生協が行っているのは、障害者への福祉有償運送のサービスである。バスやタクシー等の業界とは協議会の中で調整を行っていると同っている。移動支援のモデル事業の実施については、アドバイスを行う専門家を派遣するなど、社会福祉法人や地域の取組を支援していきたいと考えている。

認知症高齢者・障害者等徘徊検索サービス事業に関連するかは分からないが、QRコードが入ったキーホルダーを高齢者が携帯している事例があると聞いた。QRコードで読み取れる内容等について、個人情報の保護の関連で問題はないのか。

相武台地区で高齢者支援センターが個々に番号を入れたキーホルダーを配布している。高齢者支援センターの連絡先が掲載されており、連絡が入った場合には、その番号をもとに高齢者支援センターが対応している。

緊急一時入所事業について、障害者の一時入所が、昨今厳しくなってきている。介護と障害の枠を超えて、考えていってほしい。

障害との共生型サービスは、通所介護において開始している。緊急一次入所事業については、今後、共生型サービスの展開にあわせて検討を行っていく。

様々な問題が複合的になってきている。障害、高齢、貧困など、横の

つながりを持って進めてほしい。

短期入所の稼働率は7～8割で、経営上は今でも厳しい。緊急一時入所事業が見直されると、さらに経営が厳しくなる。緊急一時入所事業の利用者の理由についても、よく確認をしてほしい。

(3) その他

介護人材の確保・育成・定着に向けた取組について、事務局より内容を説明した。

4 閉会

以上

相模原市社会福祉審議会 高齢者福祉等専門分科会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	出欠席
1	相 澤 由 美	相模原人権擁護委員協議会	出席
2	石 井 正 彦	相模原市自治会連合会	出席
3	石 黒 雄 彦	相模原市老人クラブ連合会	出席
4	大久保 祐 次	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	出席
5	梶 川 義 人	淑徳大学短期大学部	出席
6	菊 池 剛	相模原市歯科医師会	欠席
7	佐 藤 聡一郎	一般社団法人相模原市医師会	欠席
8	島 森 政 子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出席
9	鈴 木 秀 美	特定非営利活動法人相模原ボランティア協会	出席
10	戸 塚 英 明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会	出席
11	原 裕 子	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
12	松 田 誠 二	相模原公共職業安定所	出席

(敬称略、50音順)

は専門分科会長、 は職務代理者